

教師・人物・時代を語る 一丹下健三先生ご生誕百周年一

The 100th anniversary of the birth of Kenzo Tange

7月20日(土)に東大工学部2号館にて、建築学専攻の同窓会である木葉会が主催する、丹下健三先生の生誕百周年記念シンポジウムが開催されました！

text_fukushi

第一部の講演では建築学専攻の藤井恵介教授の進行のもと、丹下先生に縁のある先生方が、数々のエピソードを通じて丹下先生の人物像を語られました。

神谷宏治先生と川口衛先生からは、代々木体育館や香川県庁舎など、共に関わられたお仕事での建築家としての丹下先生の姿についてお話がありました。特に神谷先生が丹下先生の人柄を表した「丹下は学びの達人である / 丹下は時代の流れを読む達人である / 丹下は粘り強い人物である / 丹下はわがまま者である」という言葉がとても印象的でした。さらに、渡辺定夫先生は「都市軸」の概念のお話や研究室時代に携わったプロジェクトでの裏話、榎文彦先生は世界の建築家の中での丹下先生の存在というテーマで語られました。



▲ユーモアたっぷりにエピソードを語る



▲会場は超満員！



▲丹下先生の作品を振り返る

第二部の座談会では隈研吾先生の進行のもと、「丹下先生と日本の建築教育のあり方」をテーマに先生方が議論を交わされました。海外の建築学生たちが60年代の丹下先生の建築デザインについて勉強しているなど、丹下先生への関心が近年一層高まっているという隈先生からの話題提示に始まり、旧制高等学校時代の建築学科のカリキュラムを振り返ってその意義を語られたり、都市工学科設立の背景にも触れられていました。

シンポジウムのテーマである「教師・人物・時代」にふさわしく、丹下先生の様々な面を垣間みるとともに、建築とは、都市計画とは何かということも考えさせられる会となりました。



▲ディスカッションは大盛り上がり

初めての演習 TA 終了！

Working as Teaching Assistants!

5月から2ヶ月半に渡った設計演習が最終ジュリーを迎えました！

text_takanashi

7月16日(火)に行われた外部講習会をもって、都市工の夏の風物詩とも言えるB3の地区開発計画演習が終了しました。千住大橋の5ha以上の土地に集合住宅を設計するという2ヶ月半の演習に非常勤講師として建築家の仲田先生、講師として空間計画研究室から出口先生、環境デザイン研究室から飯田先生と三島先生、都市デザイン研究室から西村先生、窪田先生、クリス先生、中島先生、黒瀬先生とTA3人が参加しました。

個人的には初めてのTA体験であ

り、ミニレクチャーまでもやらせていただきました。もやもやとした設計の仕方を自分の中で整理し、行ったアドバイスに対してB3が全力で答えてくれる有意義で貴重な2ヶ月半でした。

また今年のB3は例年にも増して図面表現にもしっかりと注力していてレベルの高い成果物が並びました。今年からの取組である小規模と大規模事例の両方の見学やさらなる講評のための懇親会などが少しでもそれを後押しできていたら嬉しい限りです。

一学部3年地区開発計画演習一

-B3 Design Studio-



▲中間ジュリーの様子



▲ヒートアップする最終ジュリー



▲外部講習会の様子

連載企画

"まち大コーナー第5弾!" A Message from MPS student vol.5!

まちづくり大学院で学ぶ方々からお話を伺う連載企画。第5弾は、UR都市機構に勤務する高橋さんが登場です。

【「ひとつづくり」こそが「まちづくり」】

公的な立場で、実践的なすまいづくり・まちづくりに携わりたく、UR都市機構に入社しました。設計の部署に長くおりましたが、運よく東雲キャナルコート(6組の建築家たちとのコラボ)や潮見駅前プラザ一番街(公団初のペット共生住宅)等、その当時の最先端のプロジェクトに携わることができました。

まちづくりの方向性をもっと広げたいと思っていた矢先に、ちょうど、まち大が開



▲駅前コンサート

設される話をきき、2年間お世話になりました。最先端のまちづくり情報に接することができ、そのときに出会った方々は一生の財産になっています。

まち大修了後、実際にまちづくりをやってみようと、地元のまちづくりボランティアである「読売ランド前駅周辺まちづくりプロジェクト」(ランドプロジェクト)を紹介していただきました。日本女子大学の学生さんと一緒に、コラボ商品つくったり、花イベントや駅前コンサートを開催したりと、読売ランド前を盛り上げる活動をしています。

現在は、博士課程にて、実務で行ってきた都市開発におけるデザインガイドラインによる景観形成手法に関する研究を行っています。まちづくりのテーマはいろいろあれども、ひとつをつないでいくこと、ひとつづくりこそが「まちづくり」なのかなあとか思う今日この頃です。

まちづくり大学院 1期 高橋 正樹



▲東雲キャナルコート CODAN



▲潮見駅前プラザ一番街

プロジェクト報告

トモプロジェクト Tomo-project プロジェクト

text_kashiwabara

7月12日(金)から14日(日)にかけて、鞆プロジェクトの現地調査へ行って来ました。主な調査は2006年にまとめた空家活用の追跡調査です。以前お話を伺いに行ってから7,8年が過ぎ、中には閉店した店や長期休業中の店もありましたが、多くの方は各々のペースで落ち着いてお店を続けられていました。2006年以降、新たな空家の活用も多く行われていますが、いずれも地元の方や鞆と深く関係を持つ方が使っているようでした。

13日の夜には鞆の火祭り、「お手火」がありました。夕方になるまでは、いつもと変わらない静かな時が流れていた鞆のまちも、夜になると続々と人が集まり、「お手火」に火が付くとその熱気が辺り一帯へと広がっていく様子がとても印象的でした。



▲地元の方が始めた焼きそば屋さん



▲鞆の火祭り「お手火」

建築学会コンペ入選

Otsuchi team Received Award

text_hagiwara

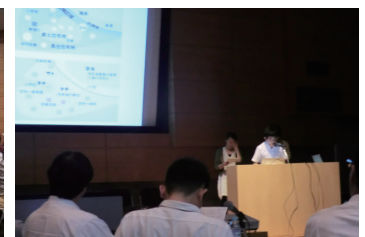
7月22日(月)、M2 萩原、M1 瀬川・道喜が建築会館ホールにて行われた、「2013年度日本建築学会技術部門設計競技」の2次・ヒアリング審査に臨み、佳作に選出されました。

今回の設計競技は、「次世代に継ぐ住宅の再建計画：東日本大震災からの復興」という課題に対し、上記メンバーに窪田先生と黒瀬先生を加えた大槌PJチームの有志で取り組んできたものです。提案では、大槌町吉里吉里集落を対象にして「平衡の道筋」という表題のもと、震災前に存在した集落の生活風景を受け継ぐこと、生活の変化を許容する住宅地を計画することで、縮退しながらも自立した集落像を提示しました。

この設計競技を通じ、2年間のPJでの活動の成果や議論の内容を含めてひとつの見える形にまとめることができ、今後のPJ活動においても価値ある挑戦になったと思います。



▲2次審査会場となった建築会館ホール



▲発表に臨むメンバー

7・8月の予定

7月26日-27日	大槌PJ 現地調査
7月30日-31日	大槌PJ 現地調査
8月9日	清水PJ 現地調査
8月21日-25日	大槌PJ 現地調査
8月30日-9月1日	建築学会 in 北海道

Information

編集後記

福士 薫

一人暮らしの人も多いと思いますが、みなさん自炊はしていますか？私は冷蔵庫の食材を管理するのが苦手です。中身は一応把握しているつもりなのですが、うっかり賞味期限を過ぎてしまったり、食べきれないまま野菜が傷んでしまったり…野菜に関しては保存の仕方が悪いのかもしれませんが。最近はお茄子がやたらと腐ります。そもそも冷蔵庫に入れるのは正しいのでしょうか…勉強したいと思います。